

## 共育セミナー

# 脳血管障害に生じる麻痺手に対するアプローチ

講師： 大阪府立大学 地域保健学域  
総合リハビリテーション学類  
作業療法学専攻 教授

竹林 崇



脳卒中後に生じる後遺症の一つに上肢麻痺がある。上肢はセルフケアや趣味活動をはじめとした多くの活動において、使用される運動器であり、上肢の麻痺、とりわけ、そこから生じる活動の中での手の使用量の減少はQuality of Life (QOL)の減少に直結すると考えられている。脳卒中後の上肢麻痺については、数十年前からアプローチが開発され、多くの手法が考案、試行されている。近年に至っては、多くの試行錯誤の中から生まれた研究の結果から、エビデンスが構築され、ガイドライン等で広く頒布されている。本学会における講義では、脳卒中後上肢麻痺におけるエビデンスと、それらのエビデンスを基盤とした上肢機能アプローチについて、実際のトレンドも含め解説を行う。